

『宮沢賢治 童話集』

～ 100年読み継がれる名作 ～

宮沢 賢治

宮沢賢治は、童話作家、詩人、教育者、農業指導者であり、物理や地質学、天文学にも精通し、幾つか曲も作曲しています。東京オリンピック2020の閉会式に、賢治作詞・作曲の「星めぐりの歌」が歌われました。

賢治の童話は世代を超えて多くの人々に愛されていますが、賢治ファンは大人の方が多いかもかもしれません

賢治の童話は、絵本をはじめ数多く出版されています。しかしながら、そのほとんどは子ども向けです。そのため、もう一度読もうとしてもなかなか手に取りにくいように感じます。また、いくつか代表作を読もうと探しても一冊に収まっていない場合がほとんどです。

今回オススメの、『宮沢賢治童話集』は、まさに賢治の短編童話ベスト10といえる本です。一度は読んだり、どこかで聞いたかもしれない童話が集まっています。

大人になって賢治の作品を再び読んでみると、子どもの時とは違った感覚をもつかもかもしれません。私には作品のなかに大人へのメッセージが隠されている、そんな気がするのです。

童話集のなかの10編は、すべてすばらしい作品ばかりですが、あえて一つあげるとしたら、私は、『虔十公園林』を選びたいと思います。それは、賢治の最高傑作、

『銀河鉄道の夜』の中心テーマであり、すべての賢治作品に繋がっている、「ほんとうのさいわい」について、改めて考えさせられるからです。

